

序 文

長崎大学公開講座叢書は、今回で第8集を数えることとなりました。今回の主題は「身体論の現在」であります。本叢書は、これまでも、第3集「長崎から“いのち”を考える」、第7集「生活・地域からの健康づくり」において、生命像や健康について多角的な視野からの解説や提言を行ってまいりましたが、その延長上に本書はあります。

本書は第2部からなります。Ⅰ部は「現代身体論の基本問題」と題して、哲学、精神科学、生活、社会、子どもの青年期・高齢者の立場から、身体について多角的に考察をしています。Ⅱ部は「身体と歯科学」と題して、特に歯科学に焦点をあてて、歯と口の身体機能、審美性、口腔病、予防、補綴、矯正、顎関節と咬合、高齢者・子どもの歯科学、先端的な歯科治療など、多彩な、多元的な解説がなされています。

我々は心だけで存在することはできず、身体だけで存在することも無意味です。身体は精神の単なる容器ではなく、両方をもって人間となるのですから、身体と精神とは切っても切れない伴侶です。また、「健康な身体は魂の客室、病んだ身体はその獄者である（サー・フランシス・ベーコン）」の言葉もあるように、我々の魂の住処としての身体は大切です。本書が、身体について深く考えさせる機会を提供することを期待してやみません。

終わりにあたり、本書の企画にあたられた生涯学習教育研究センター運営委員会、ならびに執筆下さった方々へ心からの敬意を表するとともに、刊行に御尽力をいただいた大蔵省印刷局へ深く感謝いたします。

平成8年4月

長崎大学長 横 山 哲 夫